

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

ROTARY: MAKING A DIFFERENCE

ロータリー: 変化をもたらす

2017-2018年度 国際ロータリー会長 イアン H.S. ライズリー



2017-2018年度

会長: 加藤一郎 幹事: 福田哲三 クラブ会報委員長: 花橋日出夫

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3-19 〒451-8551

事務局/TEL 052-684-6591 FAX 052-684-6592

2017 November 8

■ 2017~2018 年度方針

Enjoy Rotary—

Enjoy Nagoya Wago Rotary Club

NO.18

例会報告

●第2197回例会 平成29年11月8日(水) 小雨

●11月はロータリー財団月間

●もみじ夜間例会

18:00~ウェスティンナゴヤキャッスル

●乾杯

高木一平2016~17年度会長



●ニコボックス

「次女、國本築永が東大で単位を取得し、マッキンゼーに働き先が決まりました。」 國本桂史君

「中川さんから、ゆずっていただきましたサーブ快調です。現在、冬用タイヤを選んでおります。時々オープンで走っております。ちなみにゆずっていただいた価格より、お金がかかっております。」 加藤一郎君
「もみじ例会を楽しく過ごしましょう。」

上野山 進君、南 喜幸君、本多國泰君
平木聖三君、梶田浩太郎君、小栗正章君
服部 滋君、岩田玄知君、黒田史郎君
小南速雄君、山本文彦君、田尻幹夫君
桑山卓也君、中川信治君、石川一郎君
内間三好君、小池康資君、安井信之君
福田哲三君、加治佐健二君、田中正次君
槇野智之君、松原忠久君、加藤寿彦君
久保哲政君、加藤智弘君、端山佳誠君
伊藤尚貴君、二村伝治君、片桐寛治君
亀井敏勝君、高木一平君、佐藤公俊君
小松佳史君、坪井和義君、宮崎卓也君
稲川 久君、富島照男君、坂口啓資君

本日のニコボックス	3件	82,000円
累 計	99件	792,000円

福田哲三幹事報告

▽当クラブの行事予定

- ・11月29日(水) 例会終了後、クラブアッセンブリーを開催致します。
※理事及び役員、各委員長のご出席をお願い致します。委員長ご欠席の場合は代理の方のご出席をお願い致します。
※クラブアッセンブリー終了後、理事会を開催致します。理事及び役員のご出席をお願い致します。
- ・12月6日(水) 年末会員家族懇親会を開催致します。
※17時受付開始、場所はブルーノートです。

●ロータリーソング 我等の生業

●出席報告 会員 97 (77) 名中 出席46名

出席率59.74% 修正出席率63.24%
(10月26日分)

●ビジター紹介

浅井耕治君(稲沢RC) 外13名

加藤一郎会長挨拶

今年度のロータリークラブの世界大会は、来年6月にカナダのトロントで開催されます。出席を検討中でホテルをお探しの方は、名古屋東分区ガバナー補佐の本多さんがホテルを押さえていますので、お申し出ください。

さて本日のJetlinerは、「衝撃波」です。飛行機が音速で飛ぶと衝撃波が発生します。衝撃波が発生すると、空気抵抗がすごく大きくなり振動が発生、操縦が困難になり、時によっては空中分解することもあります。プロペラ機でも特にスピードの出る戦闘機では、翼の上面の流速は飛行速度より早くなるので、機体は音速の手前でも、翼上では音速を超え、衝撃波が発生することがあります。衝撃波が翼の上面の空気の流れを止めますが、下面では流れます。その結果、急降下をします。この状況をタック・アンダーと呼んで、大変危険な状況として注意されていました。この状況下では、舵は利かず、最悪、地上への激突となります。降下速度が一定であれば、上空で衝撃波が発生しても、上空と低空の空気の温度差で危険が回避されることもあります。といえますのは、上空では温度が低く音速も遅いのですが、低空では温度が高くなって音速が早くなります。低空で速度が音速を下回ると、衝撃波が消えてしまい舵が利くようになり、実際に助かった事例もありました。

アメリカでは、速度の出る戦闘機ロッキードP38、リパブリックP47では、主翼の下側にダイブリカバリーフラップを取り付け、速度の出すぎたときに作動させ対処していました。ドイツでは水平尾翼を、メッサーシュミットMe109では手動で、フォッケウルフFW190は電動で作動させ対処していました。日本、我が零戦では、残念ながらそこまでの速度が出せません、その前に空中分解してしまいます。一部では音速近くで飛行できる機体もあったようですが、世界が果敢に音速に向き合っていた状況に比べると、日本では残念ながらこの分野では遅れていました。

次回からはジェット機の話をしてします。

ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2760地区

2017-18年度ガバナー 神野重行

今年度も5か月目に入り、18・19日には地区最大の行事、地区大会を控える今月です。RI会長代理に韓国から2008～09年度RI会長を務められたD.K.Lee氏をお迎えしての開催ですので、出席登録していただきました皆さんには楽しみにしていただきたいと思います。

ところで、先月14・15日に開催しました第5回WFFは、二日目の日曜日は生憎の雨となりましたが、それにも関わらず多くのロータリアン、そしてそれを超える一般市民の方々にお越しいただき、大変な盛り上がりを見せることができました。そして会員皆さんのチケットの販売協力や広告協賛のおかげで、ポリオ撲滅事業への寄付とフィリピンの水道事業・子供の教育事業への協力も例年以上に実施できることに改めて感謝申し上げます。

さて今月は「ロータリー財団月間」です。「国際ロータリーのロータリー財団」（これが正式名称です）の歴史は今から遡ること100年、1917年6月のアトランタでの年次大会（世界大会）で、アーチC.クランプRI会長が「世界でよいことをするための基金を作るのが、極めて適切であると思われる」との提案をしたことに始まります。そしてこの基金が1928年にロータリー財団と名付けられ、国際ロータリーから独立した別機関となって、昨年度には財団100周年を祝う記念イベントが世界中で開かれました。

そしてこのロータリー財団は、その財源の透明性を高める努力を重ねてきて、今や我々のロータリーは揺るぎない基本理念と相俟って、世界で一番評価の高いボランティア団体に引き上げました。

ただ、私はロータリー財団、すなわちロータリーへの寄付という表現、言葉使いに違和感を覚えている一人です。それは自分が所属し、会費を納めている組織に寄付をするということに、どうも納得できないからです。今、我々の年次寄付はシェア・システムが適用され、3年先の地区補助金やグローバル補助金にその半分を使い、残りの半分も国際財団活動資金として、VT T（職業研修チーム）や財団が行う奉仕プログラムに使用されます。ですから、これは自分たちが行う世界でよいことをしようという思い、奉仕活動への拠出であり、積立金とも言えると思います。

その意味から、私たちが行っているのは、寄付(Donation)ではなく貢献(Contribution)と考えていくべきではないでしょうか。

是非、上記の主旨をご理解頂き、ご協力をお願いします。

ガバナー月信11月号より

例会	月日	今後の予定
第2199回	11. 22	東海日中関係学会長 川村範行氏 「中国共産党はどこへ向かうか・党大会分析より」
第2200回	11. 29	駐名古屋大韓民国総領事 鄭煥星氏 「韓日関係の深さ」

○このウィクリーは再生紙を使用しております。